

市政一般に関する質問を続行いたします。

内谷邦彦議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位3番、議席番号4番、内谷邦彦議員。

(4番内谷邦彦議員登壇)

○**4番 内谷邦彦議員** 創生会、内谷邦彦。

今回の質問について、間違っているところがあれば、ご指摘、ご教授いただきたくよろしくお願いたします。

ある本によりますと、スズムシは成虫になりたてのときには羽が4枚あるが、途中でみずから2枚の羽を捨ててしまう。鈴のようにきれいな声で鳴くためには後ろの羽が邪魔になるのだそうです。つまり、持ち味を高めていくためには、それ以外の相乗効果を発揮しない持ち味を捨てることで選択した強みが加速される。資源には、常に上限が設定されます。新規事業に挑戦するときは、まず劣後順位を定めて撤退すべき事業を決めなければ、新たな事業も成功しない。革新的な成功をおさめた企業では選択と集中の前提として廃棄を行った事例が多い。あれもいいし、これもいいでは結果的にどちらも生かせない。スズムシは美しい声で鳴くため、後ろの羽を捨てるのです。企業とは違いますが、私たちが新たな挑戦を行い、あるべき姿に向かうためには、何かを捨てるべきときが来ているのではないのでしょうか。

1番、レインボープランコンポスト管理運営とレインボープラン推進事業について。

平成26年度一般会計有機物再資源化対策事業、平成26年度支出金額2,522万491円。コンポストセンター運営事業について、コンポストセンターにて生産される堆肥出荷量は365.32トン、平成26年度堆肥売払収入は141万8,990円となって

おり、ほかに畜ふん処理手数料として23万8,835円の収入があります。

ほかにコンポストにかかわる費用として一般廃棄物等収集運搬等事業の中で、生ごみ収集にかかわる費用、生ごみ収集運搬車点検整備料35万5,350円、生ごみ収集運搬車重量税9万5,200円、生ごみ収集運搬車自賠責保険料10万7,190円、一般廃棄物収集運搬業務委託料、委託先がオーエムエヌ環境1,189万7,280円、レインボープラン推進事業475万円、以上の金額が発生しております。

平成26年度にコンポストにかかわる金額の総額が4,242万5,551円使用し堆肥をつくり、165万7,825円の売り上げとなり、差額として4,076万7,686円となっております。

また、過去の費用を確認しました。平成23年度コンポスト販売実績ほかで140万9,826円、コンポスト運営事業費2,308万4,981円、生ごみ収集ほかに係る費用1,668万9,498円、合計3,977万4,479円、差額としてマイナス3,836万4,653円。平成24年度コンポスト販売実績ほかで137万3,268円、コンポスト運営事業費2,155万3,321円、生ごみ収集ほかにかかわる費用で1,701万3,538円、合計3,856万5,859円。差額、マイナス3,719万3,591円。平成25年度コンポスト販売実績ほかで142万4,207円、コンポスト運営事業費2,436万9,752円、生ごみ収集ほかにかかわる費用1,696万1,196円、合計4,133万948円、差額3,990万6,741円。各年度計算した場合で、コンポスト関連の費用に対しての堆肥関連の売り上げを差し引いた金額が3,719万3,000円から4,076万7,000円の差額が出ております。ほかに生ごみ収集に関して委託料のほか、生ごみ収集運搬車点検整備料、自賠責保険料、重量税が別途発生しているようです。

コンポストセンターに関しては、平成9年より本格稼働しており、地域資源循環型の社会システムの構築、レインボープラン事業の一環と

して稼働。当初、長井市にとっては重要事業と位置づけて、中央地区の市民の方々の多大なるご協力によって今まで進めてきております。レインボープラン背景として、土・農・食という命の根幹に、化学肥料や農薬の大量投入が暗い影を落としている中、食と命の安全を未来につなげる基盤環境づくりに官も民もなく、市民一体となった取り組みを進めています。これがレインボープランです。

また、背景として昭和30年代以降、社会構造の変革により大量消費社会が始まりました。農産物の大量生産を支えるために、化学肥料と農薬を多用した農業が確立しましたが、収奪農業とも言えるこの形態は同時に土の疲弊を招きました。

大量消費社会は一方で、台所と農地が一番近い関係にある農村地帯であるにもかかわらず、地元農産物が食べられないという奇妙な現象をもたらしました。新鮮で生産者の顔が見える地元農産物は、農家の事情、市場原理などで大量消費地へ優先的に運ばれ、市内の店頭になかなか出回らないという現実立ちふさがったのです。これら大量生産、大量消費に代表される現代社会の抱える弊害と言える問題を解消すべく生まれてきたものがレインボープランなのです。これは、平成27年改訂のレインボープラン推進協議会資料から抜粋しました。

18年経過した現在、このままの位置づけでいいのか。このまま中央地区の市民の方々に生ごみの分別の負担をお願いして、このように補助金を使用していくことがいいのか今、真剣に考えるべきときではないかと思えます。

開始した時期と現在では、社会状況、環境状況が大きく変化しております。食品偽装問題や健康志向の高まりにより、農薬使用に対して厳しいチェックが入るようになり、有機栽培農法がもてはやされ、安全・安心を売りとした農産物が身近に入手できるようになってきておりま

す。

また、長井市の人口が減少している中で、堆肥生産量は今後さらに減少するのではないのでしょうか。実際、平成19年に927トンの堆肥化処理量が、平成26年度では643トンとなっております。平成26年度、主要な施策の成果報告書では、既存のプラント施設において著しい腐食化が進んでおり、大規模修繕や設備の更新が求められる箇所も多数あるとの報告もあります。

産業参事に伺います。コンポスト事業について、毎年このようにマイナスが出ている中でどのような対応を考えているのか。

また、業績を少しでも改善するためにどのようなことをやってきたのか。

今後どのようにしていくのか、事業改善計画があれば、示していただきたい。

このような質問をした場合、反対意見として生ごみ収集委託料に関して、コンポスト運営事業を廃止しても収集作業費用等、ほかにかかるのではとの話もあると思いますが、生ごみを除いた可燃ごみ収集運搬業務委託料で平成26年度では5,858万1,756円発生しております。中央地区以外は生ごみも可燃ごみとして収集している現状を考えると、プラスアルファは発生しますが、可燃ごみとして生ごみが一気に643トンふえることではなく各家庭にて現行の可燃ごみの中に含まれていきます。通常業務で可燃ごみ収集を行っていることから、状況的にはほとんど変化がないのではと考えられます。生ごみを通常の収集で可燃ごみとして処理しても、26年度実績が643トン、仮に処理費用を2万5,000円／トンで計算した場合、1,600万円程度の負担がふえる可能性があり、ほかさまざまな費用がかかると思えますし、実際の金額は正式に見積もりしてからになると思えます。

また、環境先進地としての宣伝効果との話もあるでしょう。レインボープランを使用してつくった野菜を売っており、有形無形の恩恵があ

るとの話もあるでしょう。しかし、有機農法により生産された野菜が容易に手に入ることもあり、レインボープランの野菜としてメリットが生かされない時代になってきているのではないのでしょうか。

長井市以外で販売するとしてもどれだけレインボープランの知名度があるのか、つくる側でなく消費者にメリットがなければ、どんな立派な野菜をつくっても売れません。レインボープランの農産物としてほかの農産物に比較して、ほかの農産物にない売り物とは何なのでしょう。安全・安心といった言葉だけでは納得できる資料とはなりません。安全・安心な野菜だけでは売れない時代となっています。価格的にもほかの産地の野菜と変わらない状況で何を売り物にして野菜を売するのか。レインボープランでつくった野菜が売れなければ、長井市及び他地区の消費者が買わなければ、レインボー推進協議会の冊子で言っている循環型社会は崩れているのではないのでしょうか。

学校給食で使用するだけで継続事業としていくのでしょうか。地産地消教育で使用するのであれば、レインボープランにこだわる必要があるのでしょうか。産業参事いかがでしょうか。

実際には命にかかわる事業、市民の多数の方へ恩恵がある事業については、赤字であっても継続しなければならない大切な事業ですが、コンポスト事業はどうでしょうか。総務参事と産業参事に伺いたい。

地域づくり推進課で行っているレインボー推進事業と、農林課が行っているレインボープランコンポストセンター管理運営とレインボープラン推進事業の事業内容の違いは何でしょうか。市長に伺いたい。

レインボープラン推進事業が地域づくり推進課、レインボープランコンポストセンター管理運営とレインボープラン推進事業は農林課、生

ごみ収集費用が市民課となっており、複数の組織をまたぐ事業があった場合、統括して事業内容を見ていく責任のある部署はどこになりますか。

個人的な見解ですが、地域資源循環型の社会システムの構築を目指した事業として開始し、今までにさまざまな恩恵があったと思います。しかし、18年経過した現在でどうでしょうか。このまま継続して進める事業なのかどうか。採算ベースでもっと改善できる方法はないのか。教育、福祉などを将来にわたって長井市が発展できる予算に使うのがよいのか、現在策定している長井市総合戦略の中の事業に予算を振り分けていくのがよいのか、検討会などを設けて今後の方向性を総合的に判断する時期が来ていると思います。

2番、フラワー長井線の件。

平成元年の乗客数143万1,000人、平成20年度74万7,000人、平成26年度61万4,000人と減少している現状を考え、また平成26年度主要な施策の成果報告書の中で、平成23年度から10年間の経営改善計画に沿って収支の改善に努めているが、社会状況の変化もあり、近年の経営実態が経営改善計画の内容と乖離しているために、現在、経営改善計画の見直しを行っている。今後も少子化傾向が続き、通学定期収入の減少が予測される中で、引き続き山形鉄道自身が経営努力を図っていくことは当然必要であるが、沿線自治体としても、高校生の通学手段としてや高齢者などの交通弱者の生活の足として公共交通機能を確保・維持していくという使命のもと、山形鉄道に対し持続的・継続的に支援していくことが必要とあります。

この中の平成23年度から10年間の経営改善計画が、社会状況の変化もあり、近年の経営実態が経営改善計画の内容に乖離しているとの指摘がありますが、何が乖離しているのか地域づくり推進課長いかがでしょうか。

先日、置賜広域病院組合議会議員となっておられるある議員と懇談した際に、現在の公立病院の建設場所について、なぜあの場所になったか、通院することを考えたら公共交通機関の近くに建てるべきだったとの話がありました。つくり手側の理論で進み、利用者の利便性、将来のことを考えないからあの場所になっているのではと考えました。現在、長井市でも、南陽市でも、病院までバスを走らせている現状を考えたら当然のことと理解しました。

自分で移動手段を持っていない方が公共交通機関を利用して公立病院に行く際は、記述しておりますバスを利用するか、フラワー長井線を利用することとなりますが、一番近い今泉駅は駅の構造上仕方がないことですが、ホームから改札に出るまでに階段を上り、おりの必要があります。足腰の弱られているお年寄りには非常に厳しい環境です。このことから、最初からフラワー長井線を利用して公立病院に行くことは無理と判断されている方がいるのではないのでしょうか。

今さら病院を動かすわけにはいかない、そこで提案ですが、今泉駅と西大塚駅の間に新たに置賜公立病院前の駅の新設を検討してはいかがでしょうか。場所は第6長井街道踏切手前、ここに駅を新設した際には、公立置賜病院まで徒歩でも行くことができるため、乗車人員はふえるのではないかと。当然、現在今泉駅を経由しているバスについてもこちらを経由することになると思います。

駅の構造は利用者が利用しやすい、利用者の事を最大限に考えた駅舎をつくれれば利用客はふえる可能性は高い。

また、現在、市内を循環しているバスの路線についても、公立病院に行くときはフラワー長井線を利用しやすい運行路線を計画する必要があります。

また、この近辺の土地に関して、山形鉄道

が保有している土地もあり、入り組んでいるようですが、空き地もあり、近隣住民で反対する方はいないのではないのでしょうか。

また、10月15日に行われた置賜広域病院組合議会全員協議会にて配付された渋間医療監の置賜広域病院組合の現状と課題の中でも、看護師・コメディカル（医師、看護師以外の医療スタッフ）確保のためとして、病院周辺地区の市街地化、フラワー長井線、置賜総合病院前駅の創設等、病院を中心としたエリアの総合開発について地元自治体への働きかけとの記述がありました。

このようなことから、置賜広域病院組合、南陽市、川西町などに働きかけ、共同で駅舎及び周辺の開発を検討していくことが必要と考えますが、市長いかがでしょうか。

長井市が主導して、置賜公立病院を利用した開発提案を行い、その提案では、長井市に与える恩恵を最大限に考えて計画を行うことで主導権を握れるのではないのでしょうか。先に提案することが必要だと思います。

さまざまなイベントを行って乗車人員をふやす試みは今後とも必要なことではありますが、今、本当に必要なことは、学生が通学で朝晩乗るだけではなく、日中も平均的に乗客が乗る環境をつくる必要があるのではないのでしょうか。継続的に乗客をふやすには公共交通機関を利用して行ける公共施設をふやすことが最大の方策だと思います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 内谷邦彦議員からは、レインボープランコンポストセンターの管理運営とレインボープランの推進事業についてということで、私のほうからは1点、お答えをさせていただきたいと思います。

まず、レインボープランの、その前に考え方

なんですが、レインボープランの推進協議会については、長井市としては市政功労団体ということで、唯一団体として市政功労者というふうなことで議会からも満場一致でお認めいただいで、いろんな行政運営に対して指導いただいでいます。内谷議員のほうからは詳細にわたっていろんな分析をしていただいで、これはなかなかこういった分析しているんな提言というのはなかったもんですから、そういった意味では大変ありがたいというふうに思っています。

レインボープランとして私の考え方は、確かにコンポスト事業そのものは、その施設の大規模改修も含めて見直しの時期に来ていることは確かだ、それは推進協議会の皆さんも同じ認識だと思っています。ですから、このコンポストセンターをどうするかということが一つ。

あともう一つは、いわゆる循環の理念というまちづくりの理念を新たに示していただいたと。しかも、市民の皆様とともにという考え方、これはまちづくりの根幹にかかわるということで、今までは企画調整課と、あと農林課、現在の地域づくり推進課と農林課の2つに基本的に担当になっていただいでたということなんです。

今後の課題として、先ほどのコンポストセンターの大規模改修と同時に、もっといろんな分野でその理念を生かしていかなきゃいけない。それが再生可能エネルギー、再生可能エネルギーってこれ循環ですから、これをどうするかというのは残念ながら長井では生かされてこなかったと。

あともう一つは、やはり循環の理念の中で人材の循環、結局、これはいろんな理由があって、せっかく育てた私たちの子供や孫が行きっ放しと、戻ってこない。これをどういうふうに戻ってくるかと、人材を循環させる、それが今後の課題で、これをもっと力を入れなきゃいけないというふうに思っています。

そんな考え方を前提として、ご質問の複数の

組織にまたがる事業があった場合、総括していく責任のある部署はどこかということについて、お答えをしたいと思います。

市の行政事務の執行については、ちょっとかたいことで恐縮なんですけど、市行政組織規則第2条で、市の職員は市長の指揮監督のもと、課相互の連絡を図り、全て一体となって行政機能が発揮するように努めなければならないと定めておまして、課の内部組織、所管事務及び職制については、第4条以下に必要な組織等を設け処理しております。

レインボープランに関する事務については、事業の推進等に伴い、担当部署の変遷もありましたが、関連周辺事務との調整等が必要なこともあり、より効率的で現実的な形ということで現在は3つの課で分担する事務分掌の形となっております。これはレインボープランの推進ということでは地域づくり推進課です。担当が地域づくり支援室。そして、2点目がレインボープランコンポストセンターの管理運営。それから、農産物の推進ということについては農林課の振興係。あともう1点、先ほど申し上げなかったんですが、いわゆる中央地区の生ごみの収集については市民課の生活環境係、この3つでございます。

同規則3条第3項では、行政組織規則で定める組織により処理することが適当でない場合、市長は必要な組織を設け、または職員を指定して当該事務を処理させることができると定めているが、現在のところ、レインボープランに関する事務の執行体制に大きな課題はないだろうというふうに思っております。レインボープラン推進協議会の皆さんと協議する際も、関係3課が一緒になって協議に入っているということです。

今年度から実施している行政組織機構の改編では新たに参事制を導入しまして、各参事については、行政組織規則第25条及び別表で①とし

て部門内の政策課題の掌握、調整、進行管理。そして、②として市政全体としての政策調整、推進を基本的職務内容と定めておりました、また同規則第23条では、参事を総括する者として総務参事を規定しており、レインボープランに関する事務についても所要の調整が図られていると。私の前に、まずことしからは参事が調整を図るというふうにしております。

なお、レインボープランに関する事業の推進や事務の執行体制等に課題があるとなれば、やはりこれは所要の対応を行いながら、適正な運営をやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくご指導いただきたいと思っております。

次、2点目のフラワー長井線についてのご質問でございます、ご提言でございます。

議員からは、今泉駅と西大塚駅の間に置賜病院前駅の新設をご提言いただきました。これにつきましてはいろいろ経過がございまして、平成13年ごろだったと思うんですが、あやめ公園駅っていうのを市民の皆さんの有志の形ということでご寄附をいただいて、それを市に寄附をいただいて、そのお金で1,000万円ちょっとお集めいただいて、それを議会に諮って駅ができたという経緯がございまして。

その際は、長井工業高校のPTAや学校側、それからその周辺の住民の皆さんが、やはりあやめ公園のすぐそばにも駅がないと、最初のきっかけは長井工業高校からだったんですが、これをご寄附をいただいてあれを市で建設したわけなんです、山形鉄道の場合はルールがありまして、もう赤字の第三セクターだということで、駅とかの、いわゆる住民がご利用される施設については山形鉄道側では整備しないと。いわゆる駅、簡単に言えば駅っていうことですが、それ以外の鉄道として必要な部分については山形鉄道でやるわけですが、駅については基本的にあるので、新設とか今の駅の改良とかは地元自治体でやるということでした。当時、長井市

のほうは財政再建がずっと続いておりましたんで、とてもそういうお金は支出できないということから、市民の方たちがそういうことでお金を集めていただいたと。

この後に、実は置賜病院駅もつくるべきだというふうにご方たちが、有志の方たちがおっしゃってて、私は当時市議員をさせていただいて、内谷議員は、今泉なんだからやっぱり今泉の地元の盛り上げが欲しいということで実はかなり当たったんです、地区長さんと区長さんと、あと地元の方々に。当たったところ、駅ができることについて反対はしないけども、みずから我々が力を合わせて駅をつくらうということとはなかなか難しいと。それはなぜかという、今泉の人たちは今泉駅があるわけですね。病院駅っていうのはもうほとんど川西町境なものですから、多分内谷議員、今回提案されたところも踏切の西側ですよ。あそこいい場所あるんです、私と考えているのと同じだと思うんですが。それで、そういう結果で、まず協力はするけど、みずから組織をつくったり、お金を出すのはなかなか難しいだろうということで、あやめ公園駅をつくった皆さんとお話して、時期を待とうということだったんです。

その後、ちょっと話が長くなって恐縮なんです、今回、その渋間医療監、院長先生がですね、副管理者でもあるんですが、地元自治体に働きかけ、これは私ども長井市にないです、これ非常に問題だなと。やっぱり川西町に確かに住所はあるんですが、私ども長井市と川西町は一体だと思ってるんですね、あの地域は。川西町ばかり言ってるんですよ。長井市は全く関係ないと。病院周辺に都市をつくりたいんですよ、多分、いろんな機能をつくりたいと。我々となれば、それは置賜の基幹病院の都合であって、あくまでも2市2町と県の病院だからお互い尊重してもらいたいんですが、川西町だけに言ってるんだそうです、スーパーを誘致してく

ださいとか。だから、そういうのは非常にまずいなと。

私が市長になって、管理者の、副管理者のときですね。今から6年ぐらい前なんです、川西町長と話しまして病院駅を病院組合でつくろうと。その当時の院長、医療監が言ったのは、住民の方、患者さんがご利用いただくのももちろんありがたいんだけど、病院側としても職員が使いたいんだと。やっぱり飲む機会は周りであると、ちょっと町から離れてるんで、あの周りで飲むんですね。そうすると、帰るときになかなか代行も大変だと。だから、駅も欲しいと、通勤にも使えると。患者さんも、都会から来るお見舞い客なんかだとやっぱり駅があると非常に便利だという話なんです、これごもっともなんで、私がぜひ病院組合でつくるべきだと、1,000万円ぐらいだったら県と2市2町で負担すれば何のことはないでしょうと。川西町長も、じゃあ、長井市さんのほうでそういう頑張って言ってくれるんなら川西町としても、あそこからですと400メートル弱ぐらいですね。いわゆる時間外の入り口ですけども、あそここのところは川西町の中なので、町道などについては歩道も含めて検討しますということだったんですが、当時の南陽市の市長さんは、これは違うぞと、あその場所を決めたときに長井市が駅をつくるって言ったんだから、そんなこと許せないと、こういうようなことでですね。ちょっと口論になりまして、これでは合意できないなということで頓挫したっていう経緯があります。

ですから、むしろ私からは、議会のほうから提案していただきたいと。そうすると、そのことについて病院と私ども2市2町の副管理者、管理者で、あるいは県の部長と協議して、これ私は必要だと思っています。ですから、それは可能性っていうのは高まるんじゃないかと。ただ、長井市として駅をつくることは、ちょっとあそこでは市民の皆様のなかなか理解得られないん

じゃないかと。皆さん使うのは2市2町を中心とした置賜の人たちが使う。あと、職員が使うってことですから、私はそう考えてますんで、大変いいご提案なので、むしろ病院議会の議員でもいらっしゃるんで、ぜひ病院議会の議員の皆さんと市のですね、協議していただいて、そんなことでご提案いただければ大変ありがたいというふうに思います。

ちょっと答えにならないかもしれませんが、私のほうからは以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 鈴木一則総務参事。

○**鈴木一則総務参事** 私からは、レインボープランのコンポストセンターの管理運営と、レインボープランの推進事業の内容の違いという中で、地域づくり推進課で所管しますレインボープラン推進事業についてご説明を申し上げます。

平成9年のレインボープランコンポストセンター運用開始と同時期に、レインボープラン推進協議会が設立されました。市民と行政が協働で推進するレインボープラン推進事業は、協議会が調整機能を果たしながら当時の企画調整課内にレインボープラン推進係を設置し、市が直接事業を実施してきたところでございます。

平成20年度よりレインボープラン推進協議会にその事務事業を移管してからは、市としては補助金による事業支援をしております。協議会の運営は農業者や市民、有識者、各種団体の代表者、山形県の技術指導者、市民ボランティア、行政が連携しながら行っており、市役所からも地域づくり推進課長、農林課長、市民課長が協議会幹事として協議会の事業運営に携わりながら次の3つの補助事業を実施しております。

具体的な内容といたしまして1つ目は、レインボープラン認証制度を運営し、認証農作物の普及、拡大を行うレインボープラン認証推進事業。2つ目は、市民ガイドによります視察対応や講師派遣、広報活動を行うレインボープラン

普及啓発活動。3つ目は、市民講座の開催、大学のフィールドワークのコーディネート、グリーンツーリズム調査研究企画事業などを行うレインボープラン交流推進事業でございます。

このような多種多様な活動を展開していただき、当市からの補助金に加え、市民ガイドなどによる収入を得ながら事業継続いただき、大変感謝しているところでございます。

以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** レインボープランコンポストセンター管理運営とレインボープラン推進事業についての(1)の事業費用と堆肥などの売払収入の差額についての対応はというようなことでございますけれども、レインボープランにつきましては、台所と農業をつなぎ、消費者と生産者を結びつけるものであり、生ごみをごみとして処理するのではなく、コンポスト化することによって資源として活用し、土に返して土づくりによる栄養価の高い安全・安心な農産物を各家庭の台所に届けるという地域循環のシステムであり、コンポストセンターは、コンポストの生産を伸ばし、利益を追及するものではありません。地域循環の安全・安心な環境保全型農業を推進することが目的でありますことをご理解いただきたいというふうに思います。

また、その取り組みにつきましては、教育現場でも教材として扱われ、食育として活用されております。

このような取り組みは、県内外からも高く評価され、大学のゼミ、さらにはタイなどの外国からも高く評価をいただいて、多くの視察研修者が訪れているところでございます。長井市と言えばレインボープラン、レインボープランと言えば長井市というイメージをいただけるほど、長井市の大きなシンボルになってございます。そのことは本市農業の振興においても重要な役割を果たし、人や環境に優しい環境保全型農業

の普及推進へと貢献をしているところでございます。

レインボープランは、経費面からしますと運営においては多額の支出になっておりますが、第5次総合計画や総合戦略の中でも重要な施策として位置づけ、推進を図ってきており、本市のまちづくりにおいて欠かせない重要な施策の一つであると考えているところでございます。

また、レインボープランの循環の理念は、ごみの減量化やリサイクル、再生可能エネルギー等の各種施策にも生かされております。生ごみを分別して出すことは大変なことではありますが、レインボープランの理念を理解し、協力するという市民の方々の意識は大変素晴らしいことであり、貴重な財産であると考えております。

また、生ごみを焼却せず、リサイクルすることでCO₂の削減による環境負荷の低減へと貢献をしており、地球温暖化防止にも寄与しておりますので、地球環境の保全においても欠かせない施策の一つであると考えております。レインボープランは、運営のコスト以上のPRや波及効果を得ていると考えております。

また、ここでレインボープランをやめた場合につきましては、その理念は風化してしまうということで、ぜひ内容議員からもいろいろな提案を賜れば幸いというふうに思っております。

続きまして、(2)の今までの業績改善策はということでございますけれども、コンポストの生産においては、生ごみを発酵させ堆肥化するまで80日間ほどかかりますけれども、最小限の設備と人員体制の中でコンポストセンターの管理運営に努めてきたところでございます。しかし、生ごみが年々減少している中で、コンポストの生産量も減少しており、業務改善はなかなか図れていないのが現状であります。

また、生ごみコンポストは畜産堆肥と比べますと高いという意見もございました関係で、よ

り多くの市民や農業者にコンポストを利用していただくため、それまで1トン当たり4,200円で販売していたものでありますけれども、平成21年4月からは2,625円に価格を見直し、利用拡大に努めているところでございます。

さらに、コンポストを利用した農産物の生産拡大を図るため、農家への説明会を開催し、生産者との交流や収穫祭を通じた消費者との連携も交流会も開催し、普及に努めているところでございます。

また、コンポスト利用者の利便性を図るため、レインボープラン推進協議会によるコンポストの運搬サービスも実施しているところでございます。

続きまして、(3)の今後の事業改善計画はあるのかということでございますけれども、コンポストセンターの運営においては、今課題となっているのがコンポストの生産拡大と品質向上であります。原材料の生ごみが減少する中で、生ごみ以外の副資材を検討し、畜ふん量の増加により、より肥料効果が得られるような良質なコンポストを生産し、多くの農家に使ってもらえるようなコンポストを目指していかなければならないと考えております。現在、レインボープラン推進協議会と協議をしながら進めているところでございます。

また、施設の老朽化に伴いまして、大規模修繕等も必要に迫っていることも事実でございます。今後どのように運営していくか、重要な課題となっておりますので、内谷議員ご指摘のとおり、経費の節減や改善方法等について議論を行うよう検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

続きまして、(4)のレインボープラン農産物の、他の農産物と比較しての売りはということでございますけれども、レインボープラン認証農産物は慣行栽培と比べまして手間や経費がかかりますが、減農薬や有機質肥料を使用する

ことにより疲弊した土をよみがえらせ、栄養価が高く安全・安心な農産物として差別化が図れると考えております。より安全で安心な栄養価の高い農産物を食べたいということで、レインボープラン認証農産物を買っていただいている市民も多くおられ、消費者ニーズも多様化しているところでございます。商品イメージを高めるには、まちのイメージづくりが不可欠でございます。レインボープランというまちづくりのイメージが本市農産物のイメージを高め、ブランド化に近づけられるものと考えております。

例えば高島町でありますけれども、有機農業の町としてイメージ化が進んでおりまして、実際取り組んでいる農家の方は少ないのですが、町全体の農産物が有機農産物というようなイメージ化が図れております。

また、兵庫県の豊岡市につきましては、コウノトリという鳥が生息できる環境を維持し、コウノトリが住める町の米、コウノトリ米として売られ、ブランド化が図られております。

本市農産物の安全・安心のイメージをつくるにおいては、レインボープランは欠かせない存在であると考えておるところでございます。

また、レインボープランの認証農産物の生産拡大を図るため、市民直売場で販売した場合、販売額の5%を補助しながらレインボープランの普及拡大に取り組んでいるところでございます。

平成18年でありますけれども、有機農業推進法が施行、制定されまして、国としても有機農業や環境保全型農業に力を入れ、環境保全型農業直接支払制度により支援等も行っており、国の方針あるいは消費者のニーズもその方向に進んでおり、レインボープランは欠かせない施策であると考えておるところでございます。

続きまして、(5)のレインボープラン農産物の利用方法ということでございますけれども、

おらんだ市場菜なポートでは、レインボープラン認証制度を農家にPRし、生産拡大をお願いしてございます。市としては学校給食への食材供給体制の整備に努め、レインボープラン米や各種野菜等の供給を図ってまいったところがございます。

また、レインボープラン推進協議会では、レインボープラン農産物をより多くの人に知ってもらい、味わっていただくことを目的に、レインボーラーメンあるいはレインボーサラダ、レインボーそば等を市内の飲食店と提携し、提供しているところでございます。

さらに、レインボースイーツやパウダーの商品化にも取り組んでおりまして、長井市にしかないもの、長井市だから食べられるものという唯一無二の商品で循環のまちづくりを発信し、本市特産品として定着させ、地域活性化につなげていきたいということでございます。

長井市は安全・安心なレインボープラン認証作物がつくられ、長井市に来るとその農産物が購入でき、またそれが市内の飲食店で食べられるようなレインボープランのまちのイメージをつくり上げていくことが必要であると考えており、そのような活動を行うことによって本市の農産物の販路拡大へと結びつけてまいりたいというふうに考えております。

最後に、(6)のレインボープラン推進事業、コンポストセンターの管理運営と、レインボープラン推進事業の農林課の部分の事業内容ということでございますけれども、農林課が担当している部分につきましては、レインボープランコンポストセンターで良質なコンポストをつくり、それを農家に供給し、農産物を生産するという役割を担っております。農家は田畑にコンポストを施用し、レインボープラン認証農産物、長井市推奨農産物の生産を拡大し、消費者へ提供し、生産者と消費者をつなぐ地域循環の輪をつくり、本市農業の振興を図ることが農林課の

ほうの任務と考えているところでございます。

以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一地域づくり推進課長。

○**谷澤秀一地域づくり推進課長** フラワー長井線について、経営実態が内容と乖離しているとは何が乖離しているかということについて、お答えします。

山形鉄道では、経営の改善を図るべく平成15年3月に、目標年次を平成22年とする山形鉄道株式会社経営改善計画を策定しました。その後、平成23年度から32年度までの10年間に取り組む新たな経営改善計画を平成22年12月に策定しました。この計画の策定に当たっては、経営改善に向かう社員の意識を醸成することのほか、経営達成に向けた具体的行動計画、方策を明確にすること、将来必要とされる施設などの計画的維持修繕費など、経常的費用も盛り込んだ計画となっております。しかし、営業収入面などにおける数値が、この計画と経営実態と乖離が生じたということでございます。

平成25年度当時、当該年度の営業収入面で、経営改善計画と実績見込みで約3,300万円ほどの減少が予想されておりました。この大きな要因としては大きく2点ございまして、一つは定期券収入の予想以上の落ち込み、そしてもう一つは観光事業収入の伸び悩みが上げられます。

定期券収入の落ち込みにつきましては、少子化に伴う沿線高校の定員割れ、そして学級数の減、こういったことに加えまして、自宅から近い高校への進学者の増加。これらが予想を上回るほど影響したことが原因と考えられております。

もう一つの観光事業収入の伸び悩みでございますが、平成23年3月の東日本大震災の影響が大きく、さらにこれに加えまして関越自動車道での大型バス事故を発端としまして、観光バスの時間規制強化によって遠方からの観光ツアーを沿線地域まで呼び込むことができなくなって

しまったということに起因しております。

山形鉄道の旅行代理店商品は、観光バスツアーによる割合が大きく、関連する商品販売収入にも大きな影響となったということでございます。

以上が当初の経営改善計画と実態の乖離の内容となります。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** それでは、産業参事に伺いたいんですけども、先ほど環境保全型農業直接支払事業について化学肥料、農薬を5割低減し、堆肥使用などの環境保全に対する農業に対する支援補助金という部分があった。これレインボープランと一緒に事業なのか、まるっきり別の事業なのか。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 環境保全型農業直接支払制度につきましては、化学肥料を減らし、農薬を減らすというようなことでいろんなメニューがございます、堆肥を施用して化学肥料減らす、あるいは農薬を使わないで環境保全型農業をやるといった場合に高いもので8,000円ほど10アール当たり補助金がいただけるということで、その中でレインボープランの取り組みについても堆肥を施用してる、あるいは減農薬、減化学してるというようなことで補助の対象になってございます。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** じゃ、レインボープラン、要するにコンポストの堆肥を使わない業者でもこれの対象になってるし、レインボープラン使ってもこれの対象になるということでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 普通の畜産堆肥を使った場合でも対象になりますし、このレインボープランのコンポストを使った場合でも対象になるということになります。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** それで日本のJAS法では、有機農産物と有機農産物加工食品をオーガニックとして表示する場合、生産者や加工業者が登録認定機関の検査、認証を受け、有機JASマークをつけることが義務づけられてるということになってるんですが、これ日本のJAS法のやっつて長井市の取り組みはどうなってるんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 正式にJAS法認定を受けてる方は、1戸で、米をつくってます。約1町4反ぐらいです。お一方だけです。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 要するにこの方は、逆に言うとレインボーのコンポストは使ってらっしゃるんですか、使ってらっしゃらないんですか。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** その方はコンポストは使ってないですね。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** レインボープランが地域にとって大切だというのはわかるんですけども、逆に長井市で売れてるだけであって、日本で言うと要するに基本的な有機JASマークをつけたほうが基本的には売れるんじゃないかと思うんですが、その辺はどういうふうに考えてらっしゃいますか。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 有機JASをとるというのは非常に、化学肥料、農薬を使わないというようなことで3年前から取りまなきゃならないんで、しかも認証を受けるには経費がかかるというようなことでなかなか大変で、取り組めないというのが実態でございます。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 私、勝手な思い込みだと思うんですが、逆にこの有機JAS法のほうを

とれるような支援をなされたほうが市外の方にやっぱり売り込めるのかなというふうには考えてますんで、逆に市側としてもこの有機JAS法とるための補助金とか何らかを検討なされたほうがいいのかなと思いますけども、その辺については考えてらっしゃらないですか。

○**洪谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 先ほども申し上げましたけども、有機JASというのは非常に難しい。農薬も使っていない、化学肥料も使っていないというようなことで、今、減農薬、減化学、通常の慣行栽培の2分の1ですね、化学肥料、農薬を使うのも、それがやっと米で25%ぐらい、全体の米の25%ぐらいというようなことで、まだまだ普及されていないというようなことで、農家にとって有機JASの取り組みというのは、非常にハードルが高くて、なかなか難しいような状況でございます。

○**洪谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 時間もなくなりましたので、一応最後に、先ほど市長のほうからフラワー長井線の件でお話ありましたけども、ご指摘のとおり置賜広域病院組合議会入っておりますので、2月に議会がありますので、その際に一般質問として現在川西町の町長が管理者になっておりますので、その辺で管理者ないし渋間医療監のほうに問いかけて、できるだけ実現できるような体制をとらせていただきたいと思いますので、ご協力のほうよろしくお願いいたします。以上で質問終わります。

鈴木富美子議員の質問

○**洪谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 早いもので、ことしもあとわずかとなりました。年のせいでしょうか、1年というのはあっという間に感じられます。一日一日を大切に過ごしたいと思います。

それでは、通告書に基づきまして、順次質問をさせていただきます。

第1項目、市営バスの運行について。

市内それぞれの地区の特徴の色のバスが運行して約2年になるわけです。市民の皆さんの利用状況はどうでしょうか。地域づくり推進課長にお伺いいたします。

これからは雪は避けられない状況になるわけです。バスが走ることにより、対向車対策・2車線確保等大幅に除雪費がかさむことはないのでしょうか。きめ細やかに運行されていて、大変ありがたいと思いますが、路線によっては、乗車率のないところ・時間帯などを考慮して、見直す必要があるのではないのでしょうか。

私は6月の定例会でも、ダム観光に市内バスの運行を提案させていただきました。通院・買い物等の利用客はもちろんですが、例えば地区のミニデいの送迎、文化祭、イベント等への送迎などもっと市民の足になれるようなバスであればいいと思います。また、土日の運行も視野に入れていただければいいのではないのでしょうか。子育て世代の方のスポ少の送迎など地域との連携を密にして効率のよい、市民に愛されるバスの運行ができる施策はないのでしょうか。観光交流センターが完工するわけです。長井市民の皆さんにもまちなか観光を知ってもらうためにもぜひこの市営バスを利用できないものではないでしょうか。市長の考えをお伺いいたします。

第2項目、男女共同参画社会について。

1945年(昭和20年)婦人参政権施行になってから、ことしで70年になります。私は、先日秋田県で行われました、東北地区の女性議員の研修会に行っていました。そのとき購入してきたのが、この胸につけている赤い、婦選とい